

あべのちめい ゆらい 安倍野の地名の由来

まんようしゅう わ か あべしま せつ へいあんじだい じしよ
「万葉集」などの和歌に出てくる「安倍島」説、平安時代の辞書に

で あまり べごう せつ せつ むかし ち
出てくる「余戸郷」説などいくつかの説がありますが、昔この地に

す ごうぞく あべし ゆらい ゆうりよく あべ
住んでいた豪族・阿倍氏に由来するというものが有力です。阿倍

し こうげん てんのう おうじ おおひこのみこと そせん げんざい あべのく
氏は孝元天皇の皇子・大彦命を祖先とし、現在の阿倍野区

まつぎきちよう ふきん あべでら こうだい てら た ひやくにんいつしゅ
松崎町付近に阿倍寺という広大な寺を建てました。百人一首で

ゆうめい あべのなかまる いちぞく ふる あべの あべの
有名な阿倍仲麻呂もこの一族です。古くは「安倍野」や「阿部野」

じ つか しょうわ ねん あべのく
の字も使われましたが、1943(昭和18)年に阿倍野区ができたとき、

く やくしよ とち だいちよう あべの じ つか
区役所の土地台帳に「阿倍野」の字が使われていたことから、

じ とういつ いま きんてつ おおさかあべのばしえき あべの
この字に統一されました。今でも近鉄・大阪阿部野橋駅や阿部野

じんじゃ あべの じ つか
神社などには、「阿部野」の字が使われています。

あべのく じんぶつ あべのせいめい 阿倍野区の人物 —安倍晴明—

あべし しそん えんぎ ねん げんざい あべのもとまち う
阿倍氏の子孫で、921(延喜21)年に現在の阿倍野元町に生まれ

のち きょうと で てんもん まな おんみょうじ
ました。後に京都に出て、天文やうらないなどを学び、陰陽師と

にん てんのう つか てんたい きしよう へんか ちようてい
して5人の天皇に仕えました。天体や気象の変化から、朝廷の

じゅうよう ぎょうじ について よげん せいじ
重要な行事の日程をうらない、さまざまなできごとを予言し、政治

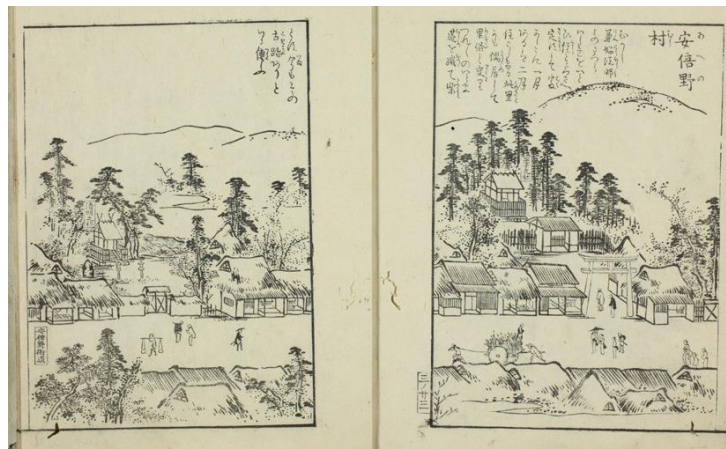
てき おお えいきょうりよく も かみ
的にも大きな影響力を持ちました。そのうらないは神のごとくあた

はは きつね おお でんせつ のこ
るといわれ、母は狐であったなどの多くの伝説が残っています。

せいめい う とち かれ あべのせいめいじんじゃ た
晴明の生まれた土地には彼をまつた安倍晴明神社が建てられ、

いま けいだい せいめい どうぞう うぶゆ いど
今でも境内には晴明の銅像や産湯をつかった井戸のあとなどが

あります。



「安倍野村」(『住吉名勝図会 巻の3』より)

WEB「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→ 住吉名勝図会 巻の3 より

『あべの発見！-もっと知りたい-』[大阪市]阿倍野区役所 2005*ID 0011145136

『あべの今昔物語』猿田博著 阿倍野今昔物語編集委員会 1995*ID 0000485817

『移りゆく阿倍野 第2版』石田稔著 [石田稔] 2002*ID 0010327733

『あべの村むかし話』猿田博著 タウン新聞社 2005*ID 0011065020

『私たちの阿倍野-もうちょっと知っとく?-』難波りんご著 新風書房 2000*ID

0000820202

『あべの村むかし話』志村敏子作 スガノレイアウト印刷 2010*ID 0012099349